

| | |
|----------------------|-----|
| 第4回老人保健事業の見直しに関する検討会 | |
| 平成16年9月13日(月) | 資料3 |

田上参考人提出資料

高知県の介護予防等の取り組み

第4回「老人保健事業の見直し検討会」発言資料

H16. 9. 13

高知県健康福祉部 田上 豊資

【Ⅰ】 高知県の介護予防の取り組みから

1. 『元気になってどうする？ 何のための介護予防か？』

- ① 住民主体の自助と共助の仕組みづくりを基本とすること
→ 個々人が生活目標を自己決定。それを可能にする共助が必要。
- ② サービスは、依存をつくりやすい、その限界と危険性を認識すること
→ サービスを『受ける』から、「私は・・したい」のために『利活用』するへ

2. 効果的な事業運営をするための仕組みづくり

- ① 市町村が、対象者の把握とサービスとのマッチング、実施、評価までの一連のプロセスマネジメント能力を高めるために
- ② 有効なサービス開発とニーズ把握・評価のための物差しづくり
- ③ 縦割りでない体系的な仕事の仕方

【Ⅱ】 都道府県の役割と国への期待

- ① 全国共通の基本的なルールづくり
・法律、評価基準、指針、ガイドライン
- ② 最先端の情報収集と人づくり
- ③ 全県的・全国的なキャンペーン

【Ⅲ】 老人保健事業と民間活用

- ① 個人に対するサービスは、民間へ（予防給付）
- ② 市町村は、システム全体のマネジメントと一次予防、ヘルスプロモーションポピュレーション戦略に重点をシフト

I 高知県における介護予防の取り組み

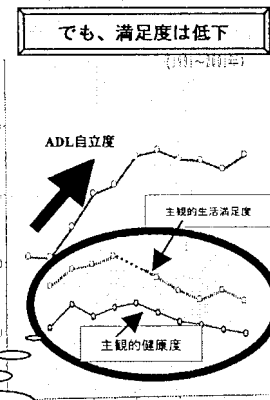
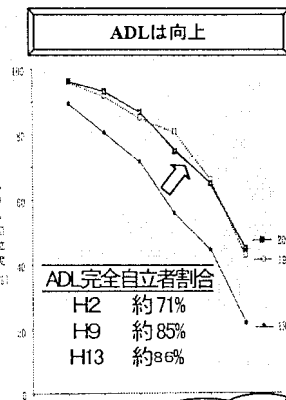
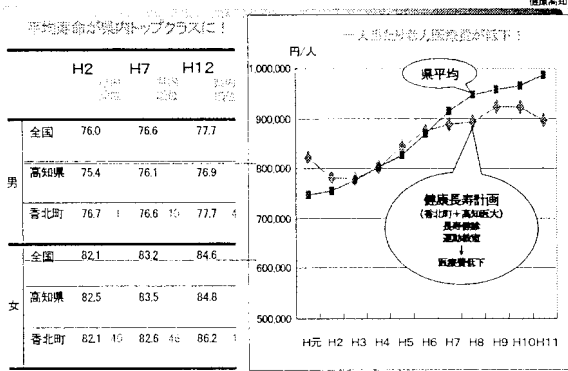
◆香北町における健康長寿計画の成果と課題

- ・長寿検診で心身の機能チェック → 運動メニューの実施 → ADLが向上・医療費抑制効果
- ・しかし、主観的な満足度・健康度は、むしろ低下

- ★ 身体が元気になってどうする？ 何のための介護予防か？ (医学モデルの限界)
- ★ 個々人の『・・・したい』を大切にしたい取り組みへ (生活者モデルへの転換)

- ・香北方式(高知医大+香北町)をどうすれば一般化、普遍化できるか？
- 簡易な手法で普遍可能なものに！ → 高齢者検診検討事業(H14～県事業として開始)

香北町の取り組みを県内に普及拡大しよう！



◆中土佐町の『鯉の国の元気塾』に学ぶ住民主体の重要性

- ・受け身的なデイサービス・B型機能訓練 → 主体的なグループ活動へ → 自主的な地域活動への広がり
- ★転機：「人生の大先輩に、何もかもしてあげるとは失礼なことだ！」(町担当課長)
- ・保健スタッフの意識改革と事業の構造転換 (サービス提供者から黒子へ、場づくり・環境づくりへ)
- 個々人に対する「サービス」の提供 から「ヘルスプロモーション」への転換
- ・「受け身のサービス」ではなく、参加者が『したい』ことを自分達で決め、自分達で実施 (住民主体の活動へ)
- ・地域住民が、ともに、知り合い、ふれ合い、支え合う関係 → 地域福祉のまちづくり、健康なまちづくり

★保険サービスの限界 → 『保険サービス+地域保健・地域福祉』(地域包括システム)へ



自主的な地域活動への発展

関係性の回復

祭りの復活

こどもとの交流

